



《教育目標》

みらいにはばたく さくらの子  
おもいあい まなびあい きたえあい

## 子どもの自己決定を促す

校 長

5月29日(土)に行った運動会。雨のため、全競技を実施できず、徒競走、リレーは、6月1日(火)に行いました。2日間かけて行った運動会でしたが、子どもたちは一生懸命競技、応援を行いました。応援合戦は体育館で行いました。感染症対策のため、全員で大きな声を出す応援はできませんでしたが、動きを揃え、まとまりを感じさせる応援でした。徒競走、リレーは晴天の下、子どもたちは精一杯の走りを見せていました。

その結果、今年度は、赤組が競技、応援ともに優勝しました。悔しい思いや喜びたい気持ちもあったはずですが、結果発表後の子どもたちの態度がとても立派でした。「素晴らしい」と感心しました。

保護者、ご家族の皆様からは、日程変更等でご迷惑をおかけし、大変申し訳ございませんでした。また、運動会準備、当日運営、後片付け等で多くの保護者の皆様からご協力いただきました。心より感謝申し上げます。



先日、ネットニュースを見ていたら、工藤勇一氏(前千代田区立麴町中学校長、現横浜創英中学・高等学校校長・教育再生実行会議委員)が、以下のように記していました。

「たとえば、睡眠不足の場合、なかなか起きられない子どもに、『どうして起きるのが遅かったの?』と聞いてみてください。すると『昨日の夜ね、ずっとゲームし続けちゃったんだよね』って。『それで昨日は寝るのが遅くなっちゃったんだ』って。日頃から叱られない安心・安全な環境だったら子どもはちゃんと答えてくれます。

さらに『そうか、どうしてゲームがやめられなかったの?』と問うと、『楽しすぎて、集中すぎて、やめられなかったんだ。時間がわかんなかったんだよね』と理由を教えられるでしょう。そこで『そうだったんだ。楽しかったんだね。時間がわかるようにするにはどうすればいいのかな?』と徐々に解決策に向けて子どもに話を聞くんです。子どもも『自分で何か工夫してみる。目覚ましでもかけてみようかなあ』といった形で何か方法を考えるはずですよ。

もちろん、その工夫が失敗することだってあります。でもその試行錯誤こそが大事なのです。

学校も同じです。職員には、「困っている子ども、悩んでいる子どもがいたら『どうしたの?』と尋ねてください。そして、子どもが理由を話したら、『どうすればいいと思う?』と子どもの意志を確認してください。そして、『何か手伝えることはある?』と手助けできることがあるか確認してください」と話しました。このことが、子ども自身が決める、自己決定を促すこと、さらには、自らの未来を切り拓く力につながるのです。

学校と家庭で力を合わせ、子どもの自己決定を促していきたいと思っております。